

## 寄稿2

# いつもの繋がりが、 いざという時の力に ～関係人口創出プロジェクト 179リレーションズの取り組み



水谷 あゆみ (みずたに あゆみ)

NPO法人ezorock事務局スタッフ

1996年生まれ。京都府南丹市育ち。2018年の北海道胆振東部地震をきっかけに北海道内の関係人口創出のためのプロジェクトを立ち上げ、自治体や地域団体と連携した事業を展開。活動に参画する青年層と共に年間300回以上のミーティングを行い、事業を展開すると同時に青年層育成を行う。社会教育士。

### 災害の現場から人と人の繋がりに

自然環境や野生動物について学びたいと思い、北海道へやってきた私が大学生の頃からボランティアとして関わっていたNPO法人ezorockへ入職したのは2018年春のことです。「自然と人を繋ぎたい」という思いから、様々な仕事を探すも納得のいく就職先を見つけることはできず、就職を半ば諦めていたところ声をかけてもらったからという理由で入職が決まりました。

それから半年経った2018年9月6日「北海道胆振東部地震」が発災しました。当団体では日常的には青年層が環境活動や地域づくりに関わる活動を展開しながら、東日本大震災以降は発災時には普段の活動を応用して被災地支援活動を行ってきました。北海道胆振東部地震の際も元々現地との繋がりのあった当団体では

すぐに情報収集を始め、札幌の事務所に電気が戻ってきた翌日の9月8日には現地入りしました。私も第一陣に加わり、安平町・厚真町・むかわ町へと通う日々が始まりました。毎日、ボランティアのみなさんと現地へ行き、様々な団体と連携しながら、災害ボランティアセンターの立ち上げ支援や子どもの居場所づくりなどを行いました。当団体を經由して支援活動に関わったボランティアは300人以上。災害から6年経った今でも厚真町に大学生が滞在するプログラムを地域のみなさんと実施しています。

発災直後に現地で見たこと、感じたことは、それまで災害に関わったことも、支援活動に参加したこともなかった私にとっては今でも忘れられない日々の始まりでした。



北海道胆振東部地震直後の厚真町での子どもの居場所

全貌を掴めない被災状況、人命救助の続くなか落ち着かない避難生活、自分自身の無力感や一体何ができるのかという葛藤。そして何よりも日に日に日常生活が戻る札幌と避難生活の続く現地とのギャップを日々感じました。最も驚いたのは、被災地で名刺交換が行われることです。支援のために全道、全国からやってくる支援者のみなさんと、現地の窓口になる方のほとんどが「はじめまして」と名刺交換をするところから活動が始まるのです。現地では緊急を要することが日々起こるなか、会ったこともない、何が得意なのかわからない人たちがたくさんやってくる姿を見たのでした。もちろん各地からの支援はとても重要で、たく

さんの人々が様々な形で現地に来ることが確実に力になります。ただ、知らない人たちと急に協力することは難しいというのも現実なのだと思います。瞬間がたくさんありました。

### いつもの繋がりが、いざという時の力に

そんな支援活動を行うなかで自然と出てきたのが、この言葉です。災害に限らず、突然困難が立ちまはかることは誰にでも起こりうることです。そんな時に、すぐに力になってくれるのは、普段から繋がっていて、顔の見える、そんな関係性なのだと強く思ったのです。たくさんの人と人が繋がる線がたくさん増えたら、誰かに何かがあっても助け合える世界になる。人口減少や担い手不足、社会の分断など、これまでにない地域課題に直面していく私たちにとって大きな力になると感じることができました。

そこから、当団体の関係人口創出の取り組みがスタートしました。実は前進となる「ボラ旅北海道」という活動を2012年頃から実施しており、北海道各地の活動に主に都市部に住む若者たちが参画し、地域にマンパワーを届けながら、若者たちも学びも得る事業を行っていました。この活動を元にしなが、暮らしている地域に関係なく、人との繋がりをつくっていく「関係人口創出プロジェクト 179リレーションズ」が2020年より始まりました。全道各地の高校生～30代の社会人のボランティアスタッフが中心となり、日々ミーティングを重ねながら活動を生み出し、実施しています。ここでは代表的な3つの取り組みをご紹介します。



大雪山国立公園旭岳で自然保全に関わるボランティア

### 関係人口の生の声を届ける

179リレーションズでは、「関係人口創出WEBマガジン 179RELATIONS.net」を運営しています。これまでに270本以上（2025年1月現在）の報告記事が掲載されています。記事を書いているのは、関係人口として地域を訪れた若者たちです。行ったことも、聞いたこともないまちを訪れた若者たちが、誰に出会い、どんなことをして、何を感じたのか、自身の言葉で生々しく綴っています。編集しWEBに掲載しているのも特別な技術を持たないボランティアスタッフたちです。粗削りな記事ばかりではありますが、関係人口の生の声を知ることができるサイトとして運営しています。地域を訪れる人を増やすためには、まずその地域を認識し、知ることが第一歩です。ただ地域を発信しようとすると、いい情報、キラキラとした情報ばかりを表に出してしまいがちです。それも必要ではありますが、このWEBマガジンは、地域を訪れる人と受け入れる地域側が持つイメージのギャップが減り、表面的でない関係性を築くためのプラットフォームとして育てていきたいと思っています。各地からの記事も募集中です。



関係人口創出WEBマガジン 179RELATIONS.net

### 滞在場所をつくると関係人口は深化するのか

私たちが関係人口創出のモデル地区として力を入れて取り組んでいる地域があります。石狩市<sup>はまます</sup>浜益区です。浜益は札幌から車で約1時間半、日本海と三方を険しい山々に囲まれ、かつては「陸の孤島」と呼ばれた場所です。人口は約1,000人で、少子高齢化、過疎化の進む地域でもあります。当団体では2009年頃より関わり始め、2019年に石狩市からお借りしている一軒家に「はまますベース」と名付けて関係人口のための滞在

場所として整備を始めたところから、繋がりが強くなってきました。年間のべ約200人の関係人口が浜益を訪問、滞在し、お祭りのお手伝いや農繁期の果樹園でのお手伝い、廃棄量の多い果樹の商品化など様々なことに取り組んでいます。特に「はまますベース」を入口に関係人口の窓口を担うボランティアチームのメンバーたちは、月に何度も浜益を訪れ拠点整備や地域の方々との交流を深めています。「はまますベース」は、関係人口がつくる、関係人口のための活動滞在拠点なのです。昨年には正式に宿泊業の許可を得て、地域の関わりたい多くの方に泊まっていただけの場所になっています。



石狩市浜益区の滞在型活動拠点「はまますベース」

関係人口という地域との繋がりの重要性を体感したのは、新型コロナウイルスが蔓延した2020年春のことでした。それまでは地域のために浜益に通っていた若者たちが、大学の休校、外出自粛などにより都市部で孤立を深めていったのです。そんな時に浜益のみなさんと実施したのが「浜益ご縁米プロジェクト」です。総量1tの浜益米を、約500人の若者たちへ無料で配布しました。配布後には、オンラインイベントを実施し、みんなで美味しいお米をいただきながら、浜益のことを知り交流する時間をもつことができました。関係人口は決して地域にいいことばかりではありません。顔が見える繋がりがあからこそ、お互いが困った時には助け合える関係がつくられていくのです。そのため

には、1、2回地域を訪問したという表面的なものばかりではなく、名前を呼び合える、信頼関係をつくっていく必要があります。ご縁米プロジェクトをきっかけに、実際にその後浜益に深く関わっていく大学生たちも現れました。まさに、関係人口といういつもの繋がりが、いざという時の力になることを強く痛感した出来事でした。コロナ禍は過ぎても、都市部で暮らす若者は孤立していたり、繋がりを求めています。関係人口創出の取り組みは、互いの力になることを共有しながら、これからも展開していきたいと思えます。

### 年に一度はみんなが集まる場を

最後の取り組みは、「オンライン関係人口フェスティバル“リレフェス”」です。内閣府の「関係人口創出・拡大事業」モデル事業として採択され、2022年より開始したものです。補助事業終了後も3年にわたって継続的に実施しています。冬場の移動が限られる北海道で、各地域で様々な取り組みを行う地域団体や自治体が交流を行う2日間のバーチャル空間を使ったオンラインイベントです。専門家による講演や様々な角度から地域との繋がりを考える分科会、各地域からの取り組み紹介ブースの3セッションで構成され、運営を関係人口に関心を寄せる若者たちと地域団体有志のみなさんによる実行委員会形式で実施されます。関係人口創出の取り組みでは、地域を訪れる人を増やすことが求められますが、時にはそれぞれの地域でどのような活動が行われているのかを知り合う地域同士の交流の場も必要です。リレフェスは年に一度、各地で頑張るみなさんが自身の活動を報告し、仲間を見つける2日間です。

一口に「関係人口」と言っても、多様な関わり方があります。私たちは地域外から訪れる人の独りよがりの活動ではなく、小さくても地域の力になる、そして、関わる人にとっても意味のある。そんな人と人の繋がりの線をこれからも増やしていきたいと思えます。

“若者” × “地域” 関係人口創出WEBマガジン配信中心!!  
179リレーションズ <https://179relations.net/>